



来年のNEAR産業部品・材料展開催にむけて

ジェットロ富山 所長 温井 邦彦

平成14年度より隔年で開催してきた、NEAR産業部品・材料展を来年開催するにあたり、どういう形が地域のニーズにあったものであるか、経済活性化につながるか、富山県および産業界で検討が重ねられている。これまでのNEAR産業部品・材料展は中国をはじめとする北東アジア諸国から安価で良質の部品および材料を調達し、コストダウンを図ることをメインの目的とした。展示会は出展者と来場者がフェイスツーフェイスで商談を行う場で、当然、出展者からの調達だけでなく、出展者に売り込みたい企業も来場し、実際双方向の商談も行われているのだが、富山県からもっと売り込むにはどのような方法が効果的か、というのが来年に向けての議論の中心である。

昨年の展示会では中国・韓国から150を超える企業が出展した。会場において、来日シアテンドしている中国および韓国企業の方に「日本から調達したい部品は何か」とインタビューを試みたところ、日本からの調達に関心を示したのは20数社程度であった。日本の高機能部品を調達し、彼らの部品と組み合わせ、よりハイエンドな部品を作りたいと考えているのではないかと当初の期待とは裏腹に、思いがけない回答がずらりと並んだ。来日している企業は金型、アルミ鋳造部品、自動車プラスチック成型部品などを製造し、日本の企業に売り込んでいる企業である。彼らが日本から調達したいのは高性能な金属加工機械、CNC工作機械、プレス機、鋳造機械、レーザー機器、精密測定機器、溶接ロボット、工具・電機工具などであった。つまり、彼らの部品や材料を生産するための機材を日本から購入したいのだ。来年はNEAR産業部品・材料展と「とやまテクノフェア」を同時開催する案が有力となっている。同テクノ

フェアは富山県内外の産業・工作機械メーカーが一堂に会する見本市である。機材を売りたい側と買いたい側のニーズがマッチし、同時開催の相乗効果が期待できるものと考ええる。

では、富山県の高機能自動車部品、電子部品は中国のどのような企業に売り込めばいいのだろうか。いろいろな調査研究を見ていると、自動車部品は日系企業同士の取引が主流のようであるが、日系と欧米系自動車部品メーカーとの間の取引も増加傾向にある。中国系とは、低価格帯の自動車を中心に製造している現状ではビジネスは期待薄だが、高級車に移行したときに価格が高めの日本製部品にもチャンスがめぐってくると考えられる。この考え方でエレクトロニクス機器の業界に目を転じれば、液晶テレビなどハイテク技術の中国系メーカーはすでに多く育っている。富山の電子部品にとって中国系メーカーは有望な顧客であり、大きな市場が存在するはずだ。実際、既にビジネスは十分行われていると思うが拡大の余地はあるだろう。現在、県内企業への中国からの電子部品の受注が戻ってきている。可能性を感じさせる。来年度の計画として部品を調達したいバイヤーを中国などから呼ぶことも考えられている。日本製部品を必要としている企業をもっと研究調査し、富山に呼べれば大きなビジネスチャンスとなるであろう。

また、二つの展示会を同時開催するにあたり、総称を「ものづくり総合見本市inとやま」にしようという案が練られており、また、岐阜県からの参加も見込まれている。輸出支援や広域性という新たな要素を取り入れ、愛される展示会として今後も育ってほしい。